



講師のConroy氏（右）と司会の半田先生（左）

発熱小児が受診したケースについて
ロールプレイング形式で学んだ

西宮・芦屋支部は11月15日に西宮医療会館でMedical English #54を開催。「February child case=発熱小児のケース」をテーマに、Robert Conroy氏が講師、半田伸夫先生（西宮市・半田医院）が司会、寺田春郎先生（西宮市・てらだ小児科）がアドバイザーを務め、医師10人が参加した。坂尾将幸先生の感想文を掲載する。

前回の消化器疾患のテーマに引き続き、11月15日に開催された第54回Medical Englishのテーマは「発熱小児」のケースについてでした。あらかじめ渡されたテキストの空欄部分を和英訳しストーリーを開拓する講義スタイルであります。

内容は診察場面だけではなくホットラインからの電話対応、薬局での処方確認など

の方法、感染症法に基づく届出に至るまで多岐にわたる内容を今回は小児科医の寺田先生が設定してくださいました。

「氷嚢を両脇、太ももの間に入れて体を冷やしてあげてください」「ワクチン接種の記録はお持ちですか?」「感染症を疑う場合にも届出が必要です」などなど。現場でのいろいろなシチュエーションでふだん何気なく喋っている内容を、いざ英語に翻訳しようと思うと難しいところです。

参加人数は10人、薬剤師・医療通訳の方もおられ、実際にどのような表現を使用して会話を成立させているのかを学ぶ良い機会です。英訳部分についてはコンロー先生が出来るだけ平易な表現に努めてくださり解説を加えてくれます。いつも通り終始和やかな雰囲気で進んで1時間あまりのセッションが終了しました。今回は麻疹・風疹を疑うケースで疾患におけるポイントも詳しくおさえられていて内容は大変に興味深く、資料を一から作成してくださいました半田先生・寺田先生のご尽力にあらためて感謝いたします。

【西宮市・さかお内科・消化器内科】

坂尾 将幸】

電話対応や処方確認など多岐にわたる内容学ぶ

英語で診療 Medical English#54 感想文

新年あけましておめでとうございます。西芦支部・支部長の法貴憲です。昨年は、前半は台風や洪水に襲われ 夏の酷暑にも見舞われましたが、後半は老いも若きも「ワントーム」となって、ラグビーで国中が沸いた1年でした。このエネルギーを今年の東京オリンピック・パラリンピックに向けていきたいものです。

しかし、国内政治は安倍内閣、自民党的独裁政治が続き、「森友学園」「加計学園」「桜を見る会」問題などは、国会で詳細な議論もされず、まやかしの論理で、幕を閉じようとしています。内閣の大臣や、国会

議員などが相次いで辞任し、日本の政治は末期症状と言つても、過言ではありません。それにも拘わらず安倍首相は、軍拡を推し進めようとしています。医療界に目を向けると、昨年10月に消費税が10%に引き上げられたにも拘わらず、今年度の診療報酬の改定率は、本体で僅か0・55%に留まりました。これではまた、廃業に追い込まれる医療機関も出てくるのではないかでしょうか。介護保険料も引き上げられ、弱者にはますます厳しい世の中です。せめて引き上げられた消費税が、正しい方向に使われているかどうかを、見守っていきたいものです。

さて今年は、「阪神・淡路大震災」から25年です。開業の若い先生の中には、これを経験されていない、あるいは記憶されていない方もいらっしゃると思います。西芦支部では1月18日に西山理事長をお迎えして、4人の先生方とともに、当時を振り返り、また来るべき東南海地震にいかに備えるべきかを考える集会およびシンポジウムを開催いたしました。またこのほか今年も、盛り沢山の講演会などを開催しますので、ご期待ください。是非、若い先生方のご参加をお待ちしております。



新年の挨拶

支部の企画にぜひご参加ください

西宮・芦屋支部長 法貴 憲



県会
兵庫
保険医
西宮 支部 ニュース

No. 351
2020・1・25

発行 兵庫県保険医協会 西宮・芦屋支部
西宮市甲風園一―一五 法貴皮膚科内
連絡先 兵庫県保険医協会
電話○七八(三九三)一八〇一
〒662-0832



持ち寄ったレントゲン画像をもとに参加者全員で討議した

西宮・芦屋支部は9月20日に、西宮渡辺心臓・血管センターで、第19回胸部X-P読影会を開催。原秀樹先生(尼崎市・はらクリニック)が講師、橋野盛彦先生(西宮市・橋野医院)が司会を務め、医師6人が参加した。参加者は診察の中で撮影した胸部レントゲンの画像や症例を持ち寄り、画像から読み取れる症状について討議。治療を進める中で時間経過とともに変化するレントゲンの画像や、併せて行った超音波・血液検査などの結果と突合しながら、診療の流れを議論した。

参加者からは、それぞれの陰影が何を表しているかや、レントゲンの他にどのような検査を行つたらよいかなど活発な質問も寄せられ、講師や参加者がそれぞれの診療の経験から意見交換を行つた。

第19回胸部X-P読影会

レントゲン症例を持ち寄り学び合う



康先生(右)が日韓の歴史について詳しく解説した

西宮・芦屋支部は12月7日に西宮市勤労会館で市民学習会を開催。「日韓の歴史を紐解く」をテーマに、康宗憲先生(同志社大学嘱託講師)が講師、広川恵一先生(西宮市・広川内科クリニック)が司会を務め、医師ら35人が参加した。水間美宏先生からの感想文を掲載する。

康宗憲氏は、韓国大法院判決にある「植民地支配および侵略戦争の遂行と直結した日本企業の反人道的な不法行為に対する慰

謝料請求権」は、国連ダーバン宣言「植民地主義が起きたところはどこであれ、いつであれ、非難されその再発は防止されねばならない」や、国際人権規約b「何人も強制労働に服することを要求されない」の精神に合致すると解説されました。

私の祖父は朝鮮殖産銀行の理事で大阪支店長だったため、以前から祖父が残した「朝鮮殖産銀行史」を含めいくつかの資料を読みました。明石書店『日韓交流の歴史』には「韓国併合直後からの土地調査事業により朝鮮人農民は土地を奪われ日本人などへ移住し：国有地とされた土地は日本人移民のために設立された東洋拓殖株式会社などに安価で払い下げられ：朝鮮殖産銀行は主に農業部門への貸し付けを行なつたので：朝鮮人は日本の銀行資本に支配されることになった」と書かれています。

祖父は今の山口県萩の出身ですが、両親とも明治維新後の「萩の乱」のあとに亡くなつたため、孤児として親戚に引き取られました。私は困難な時代を生き抜いた祖父を尊敬しますが、祖父の「名誉」を守ろうとして日本の朝鮮支配にもいいところがあつたと言ふつもりもありません。

東アジアの平和は、独立民主の日本と自由平和の統一コリアとの平等互恵の関係により実現すると思います。そのためには日韓の歴史を事実にしたがつて学ぶ必要があると思いました。

【東灘区・東神戸病院 水間美宏】

市民学習会 「ハンセン病問題と私たちの責任」

日 時 2月15日(土)午後2時～
講 師 ハンセン病家族訴訟弁護団共同代表
德田 靖之 先生
会 場 兵庫県保険医協会 5階会議室
(JR・阪神「元町」駅東口を南へ徒歩7分)

- | | |
|--------------------------|--------------------------------------|
| ①健康情報テレビサービス | ①第28回日常診療経験交流会 (10・27) |
| ②市民学習会「日韓の歴史を紐解く」 (12・7) | ②第96回評議員会・臨時決算総会・第42回共済制度委員会 (11・17) |
| 【報告】 | ③認知症外来診療経験交流会 |

*世話人会の日程は毎月第4金曜日です。
支部についてのご意見や企画案などを
お寄せください

西宮・芦屋支部は12月27日(金)に西宮医療会館で世話人会を開催。3人が参加しました。

【予定・企画】

①支部忘年会 (12・28)

②阪神・淡路大震災25年のつどい (1・18)

③保険請求事務講習会 (2・8)

④市民学習会「ハンセン病問題と私たちの責任」 (2・15)

⑤健康と医療について語り合う会 (3・13)

⑥2020年度診療報酬改定研究会 (3・26)

世話人会だより